



2026年3月期 第1四半期 決算説明会資料

株式会社FRONTEO 証券コード 2158

2025年8月14日

CONTENTS

01	決算ハイライト	3
02	ライフサイエンスAI事業	9
03	リスクマネジメント事業	20
04	DX事業	27

Appendix 会社案内

01 決算ハイライト

2026年3月期 1Q 経営指標

- 連結売上高、連結営業利益は、下期偏重になる想定通りの進捗
- 営業損失の主要因は、FY24に実施したリーガルテックAI分野の米国事業撤退費用(業績予想織込み済み)
- 成長分野であるライフサイエンスAI事業への採用投資を加速

連結業績		ライフサイエンスAI事業	
売上高	1,546百万円 進捗率 22.1%	売上高	営業利益
		107百万円 進捗率 15.4%	▲137百万円
営業利益	▲88百万円	リスクマネジメント事業	
		売上高	営業利益
		966百万円 進捗率 23.0%	▲7百万円
EBITDA	17百万円	DX事業	
		売上高	営業利益
		472百万円 進捗率 22.5%	56百万円

2026年3月期 1Q 連結業績および進捗

- | ライフサイエンスAI事業：売上高は2桁成長を継続。社内計画通りに人的投資を加速した結果、営業損失が増加
- | リスクマネジメント事業：リーガルテックAI分野の米国事業撤退により売上高が減少した一方で、ビジネスインテリジェンス(BI)・コンプライアンス支援分野、経済安全保障分野は順調に推移
- | DX事業：株式会社アルネッツ(以下アルネッツ)の買収効果により売上高・営業利益が大幅増収増益

連結損益計算書

(百万円)	FY24				FY25	前年同期比		FY25	進捗率
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	増減	変化率	業績予想	
売上高	1,580	1,563	1,584	1,370	1,546	▲ 34	▲2.2%	7,000	22.1%
(ライフサイエンスAI事業)	64	75	73	141	107	43	67.7%	700	15.4%
(リスクマネジメント事業)	1,458	1,392	1,397	1,125	966	▲ 492	▲33.7%	4,200	23.0%
(DX事業)	58	95	113	103	472	414	708.1%	2,100	22.5%
売上原価	689	689	666	601	735	46	6.7%	-	-
売上総利益	891	873	917	769	811	▲ 80	▲9.0%	-	-
販売費及び一般管理費	741	734	757	691	899	158	21.4%	-	-
営業利益	150	139	159	77	▲ 88	▲ 238	-	700	-
(ライフサイエンスAI事業)	▲ 64	▲ 57	▲ 72	▲ 37	▲ 137	▲ 72	-	▲ 210	-
(リスクマネジメント事業)	200	178	193	86	▲ 7	▲ 207	-	790	-
(DX事業)	14	18	37	28	56	41	283.5%	120	-
経常利益	177	118	185	62	▲ 101	▲ 279	-	715	-
当期純利益	124	82	77	270	▲ 168	▲ 292	-	615	-

* 2026年3月期よりセグメント変更しております。2025年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

2026年3月期 1Q 連結業績および進捗

- | 現預金の減少・負債の増加は、アルネッツ買収の影響が主な要因
- | 自己資本比率は、39.2%

連結貸借対照表

(百万円)	25/3	25/6	25/3比	
			増減	変化率
資産の部				
流動資産	4,003	3,686	▲ 316	▲7.9%
現預金	2,598	2,168	▲ 430	▲16.6%
売掛金及び契約資産	1,025	1,027	2	0.2%
貸倒引当金	▲ 5	▲ 9	▲ 3	-
その他流動資産	383	499	115	30.2%
有形固定資産	299	302	2	1.0%
無形固定資産	824	2,090	1,266	153.7%
ソフトウェア	432	572	140	32.5%
投資その他の資産	1,340	1,767	427	31.9%
資産合計	6,466	7,847	1,380	21.3%
負債・純資産の部				
流動負債	2,844	3,838	993	34.9%
固定負債	394	667	272	69.1%
純資産	3,227	3,341	113	3.5%
負債・純資産合計	6,466	7,847	1,380	21.3%

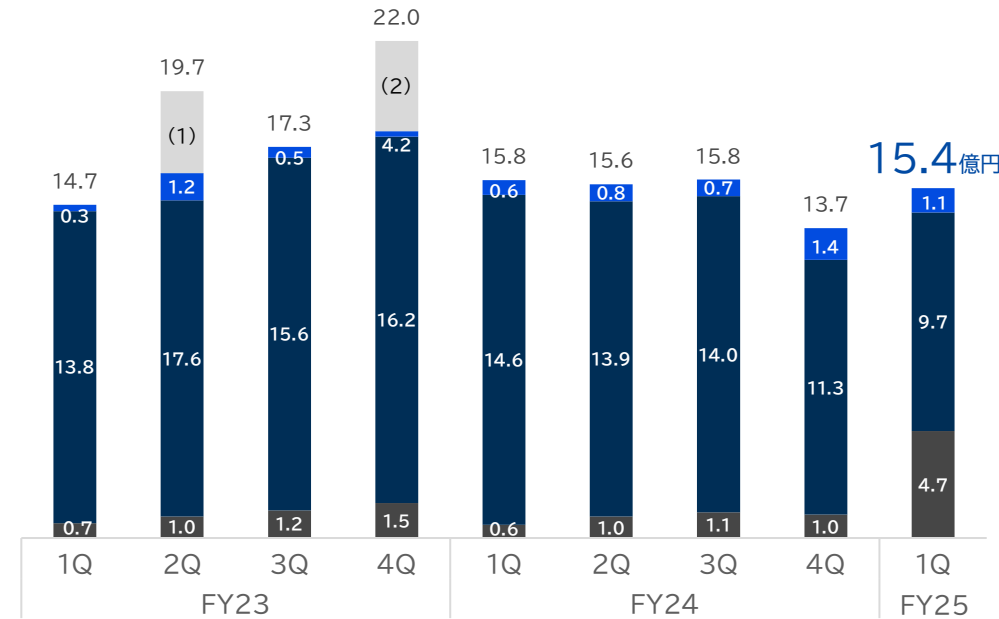
売上高・営業利益の推移

- | 注力事業への事業転換が順調に進行中
- | ライフサイエンスAI事業の成長に向けた先行投資とリーガルテックAI分野の米国事業撤退費用により一時的に利益率が低下

連結売上高

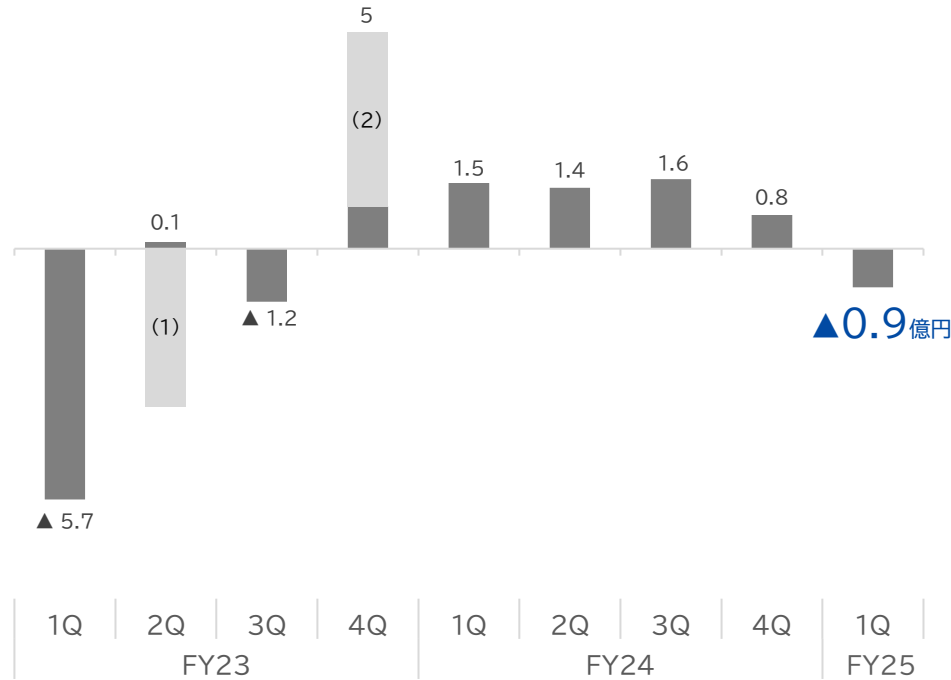
(億円)

- ライフサイエンスAI事業
- リスクマネジメント事業
- DX事業



連結営業利益

(億円)



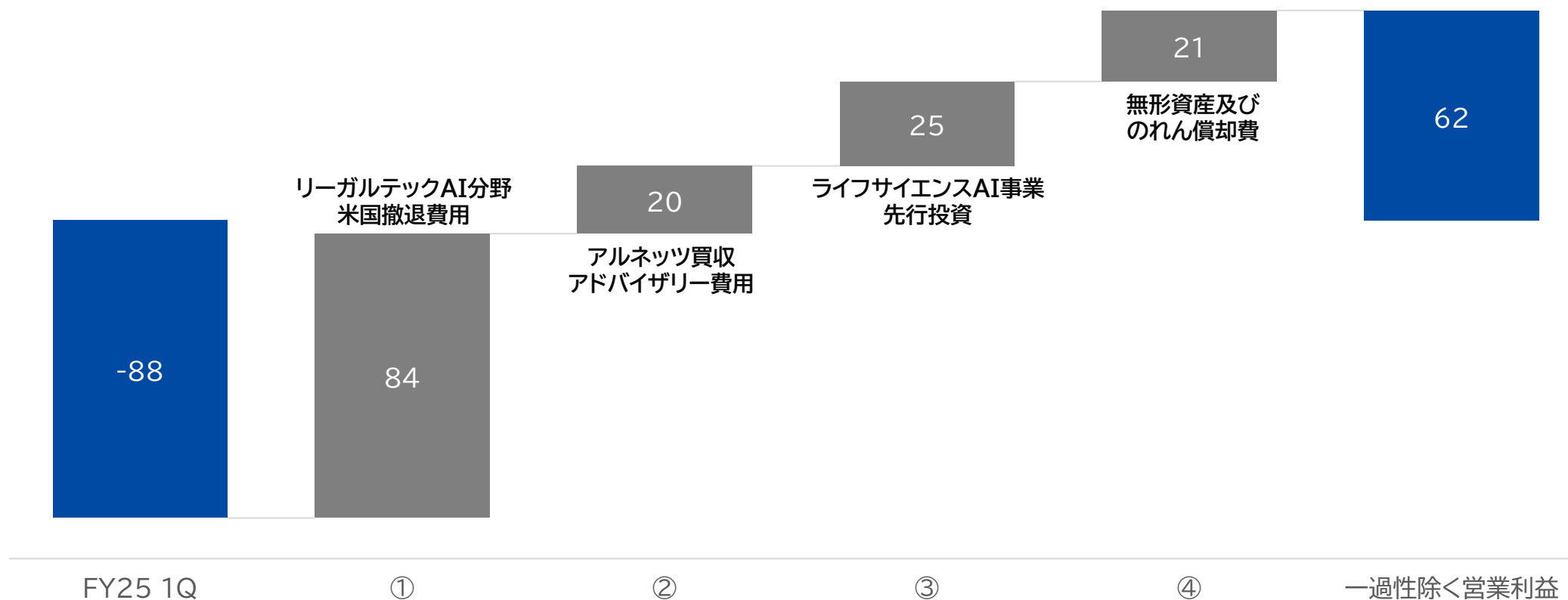
(1) リスクマネジメント事業: 大型案件ライセンス買取による収益を一括計上 (2) AI医療機器契約一時金の一部を計上

* 2026年3月期よりセグメント変更しております。2024年3月期及び2025年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

第1四半期営業損失の要因

- ｜ FY25 1Qの営業損失は、業績予想に織り込み済みのリーガルテックAI分野の米国撤退費用が主な要因
- ｜ ライフサイエンスAI事業のAI創薬分野への先行投資を継続
- ｜ 2025年4月に子会社化したアルネッツ買収にかかる、一過性のアドバイザリー費用と、無形資産及びのれんの償却費等の影響

(百万円)



02 ライフサイエンスAI事業

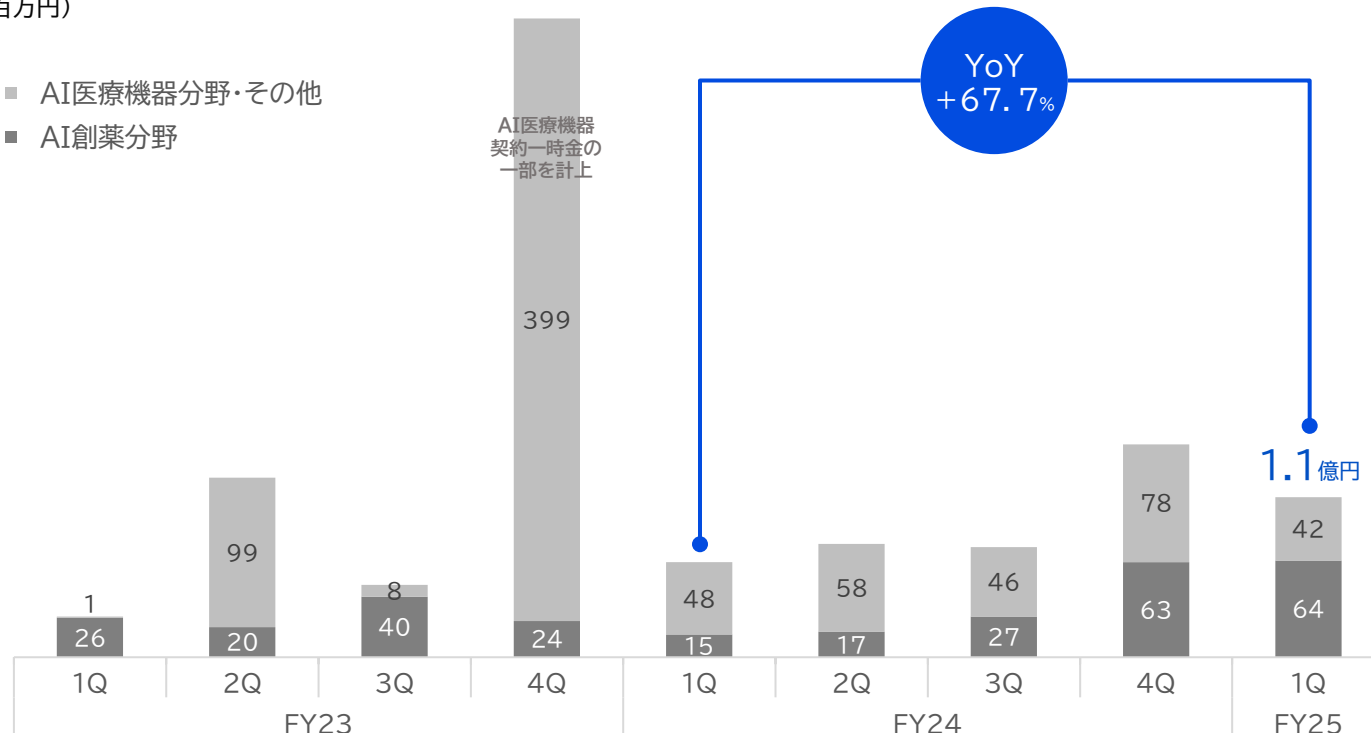
ライフサイエンスAI事業 売上高

- AI創薬分野のAI創薬支援サービス“Drug Discovery AI Factory(DDAIF)”は、POCを中心とした案件から共創プロジェクト*案件へ移行し着実に案件を積み上げ。また契約時に発生するアップフロント収益だけでなく研究進捗に応じたマイルストーンやロイヤリティフィーなど収益構造は多様化し、プロジェクト単価の向上を見込む
- AI医療機器分野において、塩野義製薬との「認知症・うつ病の診断支援AIプログラム事業に関する戦略的業務提携契約」における「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」の製造販売承認取得及び社会実装に向けた開発は計画通りに進捗。将来的には製品上市後の販売額に応じたロイヤリティ等による中長期的な安定成長を見込む

売上高

(百万円)

- AI医療機器分野・その他
- AI創薬分野



*共創プロジェクトとは、製薬企業と当社の研究チームが協調し、検証済標的の獲得までを目指す形態

ライフサイエンスAI事業 AI医療機器分野 パイプライン

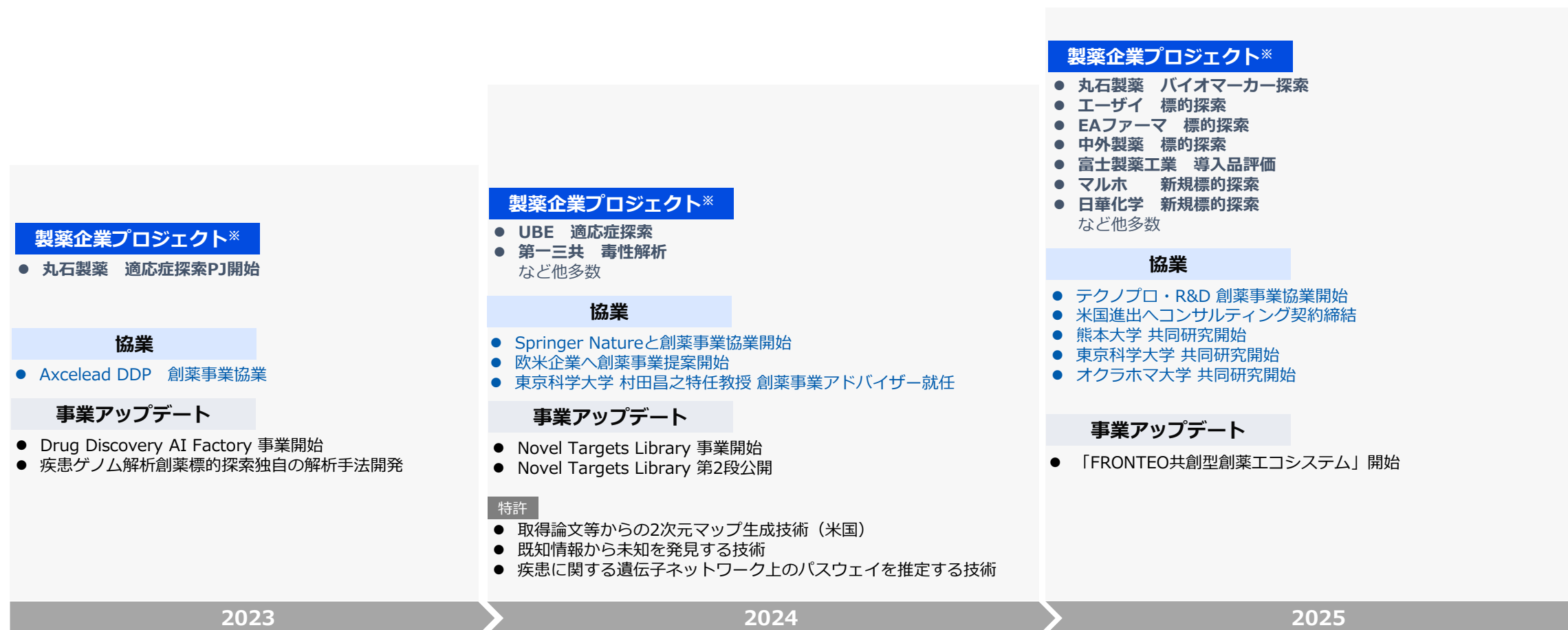
- 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」について、治験届を提出。2026年度の承認取得を目指す
- 他疾患を対象としたアライアンス及び非医療機器の産業横断アライアンスの協議が進行中

アライアンスのパイプライン



ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 Drug Discovery AI Factory(DDAIF) 沿革

- 2023年7月のDDAIF開始以来、特許に裏付けられた技術がPOCでその実績を認められ、製薬企業等との共創プロジェクトへ発展
- FY25は、DDAIFを核とした「FRONTEO共創型創薬エコシステム」を開始し、多様な共創パートナーとの革新的医薬品の創出を目指す



※公開可能PJのみ記載

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 自社研究/共同研究から共創プロジェクトへの発展

｜ FY25より自社研究・共同研究を起点とした活動に注力

｜ 得られた研究成果は論文・学会を通じた公表だけでなく共創プロジェクトへの発展や仮説の売却を通じた収益化を狙う

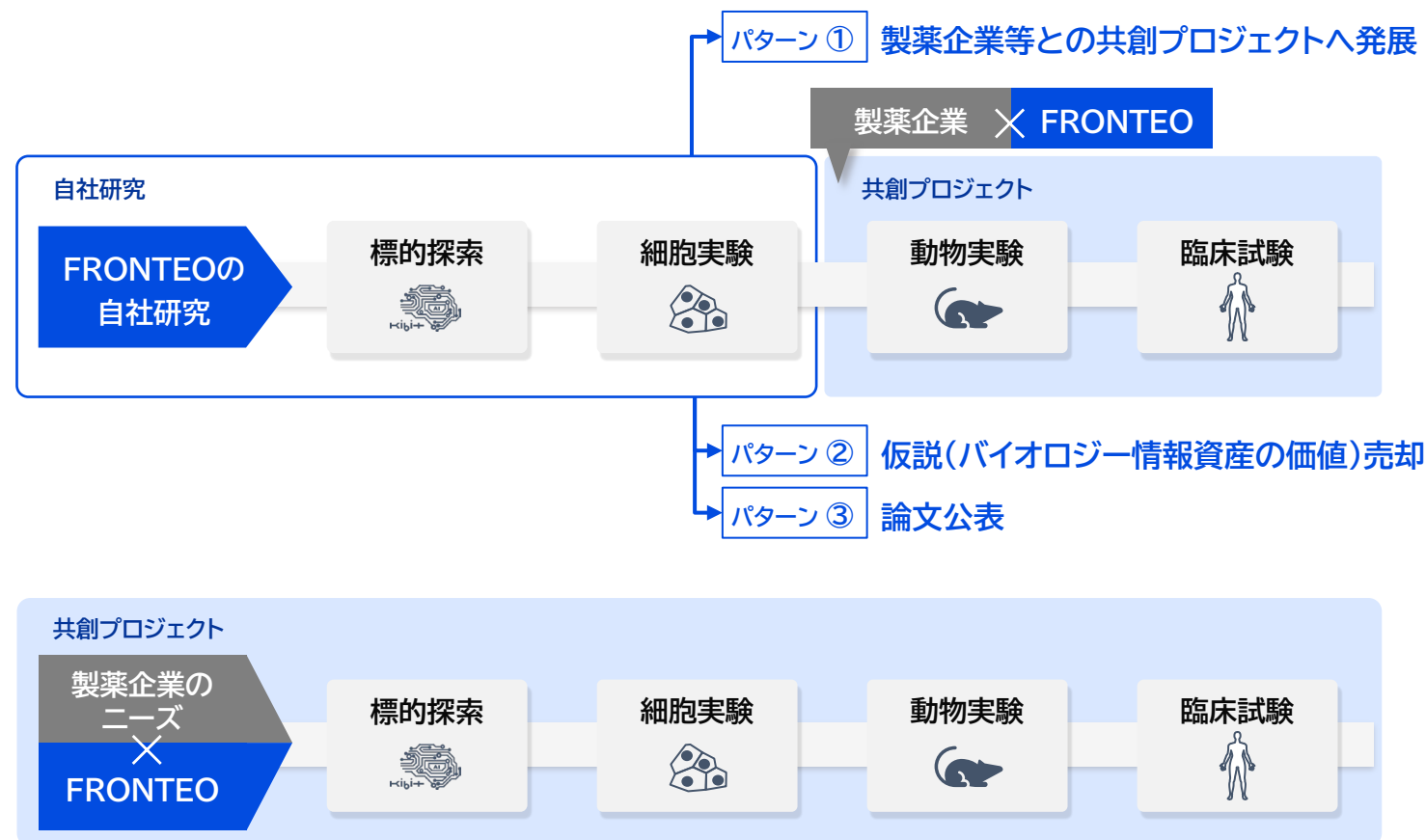
共創プロジェクト の起点

自社研究 パイプライン

- ・ 自社研究は中間成果に応じて複数の出口を持つ可能性がある
- ・ 成果をもとに製薬企業等へプロジェクトの打診を行い、連携開始が「共創プロジェクト」の起点となる
- ・ 共創プロジェクトに進まない場合の出口として、仮説(バイオロジー知見の価値)売却や論文発表などが想定される

製薬企業等 のニーズ

- ・ 製薬企業が掲げる疾患領域や治療ニーズを出発点とする
- ・ ニーズに応じたテーマ設定を行い、協働で仮説構築・標的探索を推進
- ・ 以後の検証実験・候補評価までを共創フレームで継続的に実施

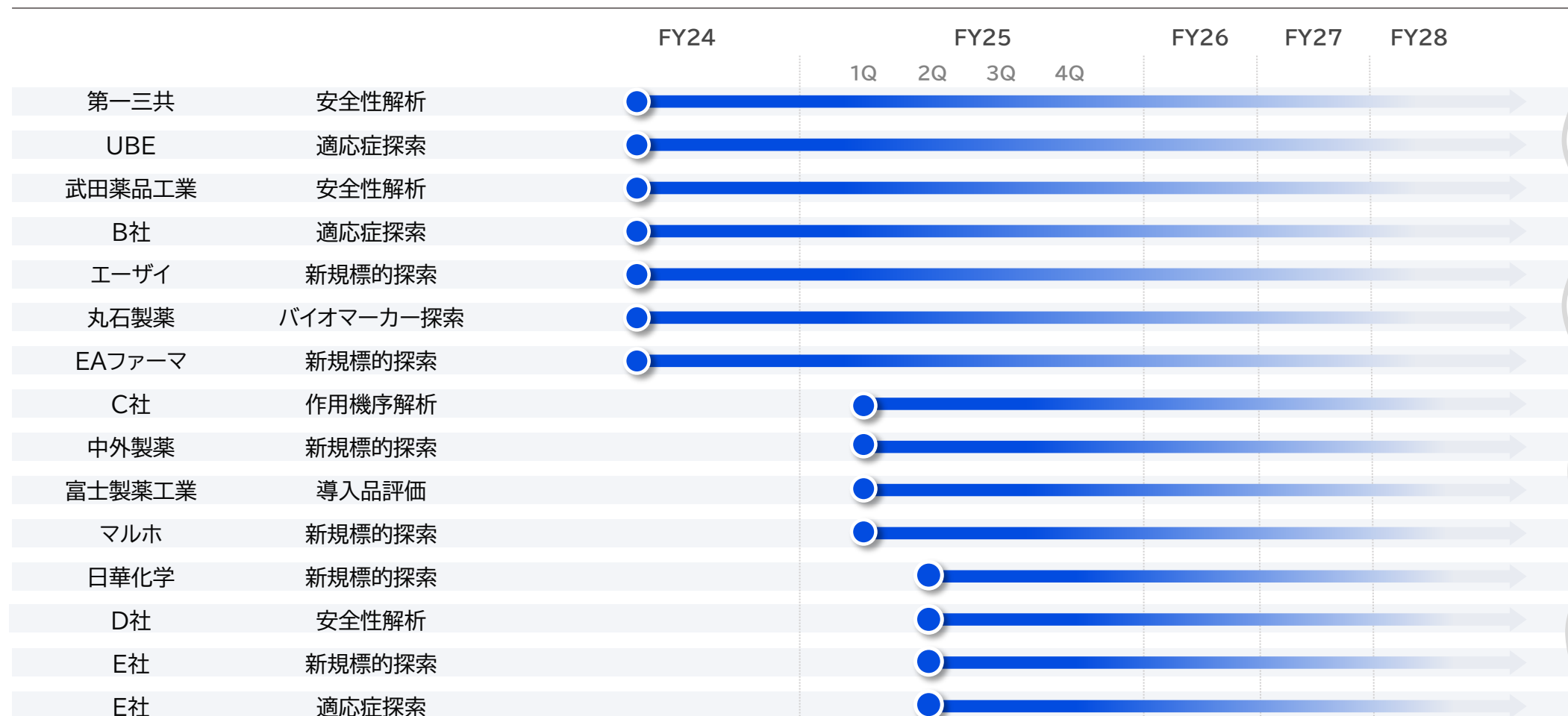


ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 パイプライン

｜ AI創薬支援サービスDDAIFの実績が積み上がり、FY25通期でのKPI10件*に対し8件受注しており、進捗率80%達成

｜ 足元では、複数の製薬企業との契約に向けて交渉中

アライアンスのパイプライン



* ライフサイエンスAI事業のAI創薬分野のステージ4達成に向けてのKPI

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 自社研究/共同研究パイプライン

- | 中長期的な収益化を視野に入れた、研究テーマを複数進行中
- | 足元、すい臓がんの標的を複数の製薬企業との契約に向けて交渉中
- | 創薬における仮説生成とバイオロジー深化を通じて、製薬企業等との共創を推進

自社研究/共同研究パイプライン

	研究テーマ	疾患領域	現ステージ	パートナー	今後の展望
公開済	新たながん治療法探索に関する共同研究	—	FRONTEOがDDAIFの解析手法を活用し、特定のがん種に対して治療効果のある既存薬を抽出し、熊本大学が細胞実験や動物実験、臨床データの調査などを通じて仮説の検証を行う		
	マイクロバイーム創薬の共同研究	—	マイクロバイームサイエンスに関するデータベース情報をDDAIFで解析し、腸内細菌の作用や、疾患との関連性の探索手法の開発、マイクロバイーム創薬への応用可能性などを検証		
	新規標的分子候補の細胞増殖抑制に対する効果検証	すい臓がん	新規性の高い標的遺伝子の候補17個を抽出、in vitroにて、がん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果を確認	検討中	標的候補に対して作用するメカニズムを解明 薬を構成する化合物の獲得や、動物実験での有効性の確認を目指す 足元では、複数の製薬企業との契約に向けて交渉中
未公開	研究テーマA	疾患A	自社での検証を 鋭意注力中		—
	研究テーマB	疾患B			—
	研究テーマC	疾患C			—
	研究テーマD	疾患D		X社(協議中)	—
	研究テーマE	疾患E	特許出願検討中	Y社(協議中)	—

AI創薬:DDAIFにより抽出した、すい臓がん新規標的分子候補の細胞増殖抑制に対する効果を確認

自社研究

FRONTEO、AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory」により抽出した、すい臓がん新規標的分子候補の細胞増殖抑制に対する効果を確認

～きわめて新規性の高い標的分子候補をわずか2日間で多数抽出することに成功、「標的探索」の劇的な加速へ～

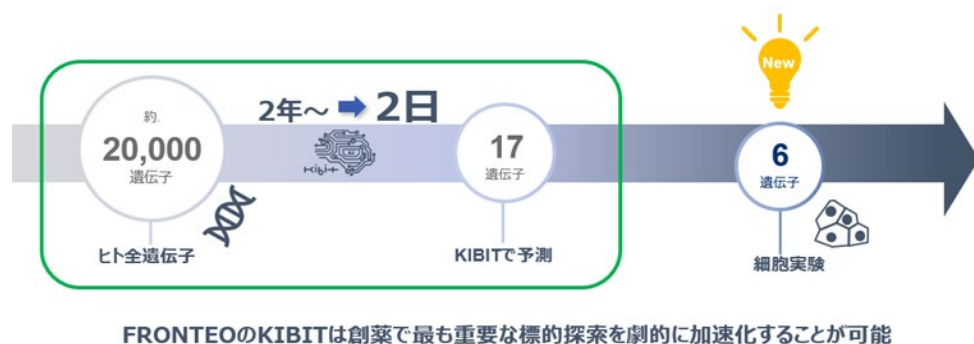
株式会社FRONTEOは、AI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory(以下、DDAIF)」を活用したすい臓がんの創薬標的分子候補の抽出およびin vitro(試験管)にて、がん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果が確認されましたことをお知らせいたします。本実験は、文献に記載のない標的分子と疾患の関連性を抽出するDDAIFの有効性を証明することを目的として、当社が主体となって実施されたものです。

■標的分子探索を約2年から2日に短縮し、新規性の高い標的分子候補を多数探索

今回の実験ではDDAIFを活用し、わずか2日で約2万個のヒト全遺伝子の中から、標的分子候補17遺伝子を抽出することに成功しています。従来の創薬におけるアプローチでは、こうした標的分子を抽出する「標的探索」のプロセスに2年以上を要することも珍しくなく、特に文献に記載のない新規性の高い標的分子を見出すことは時間をかけても非常に困難と言われていました。DDAIFの活用を通じて、短期間で標的分子候補を抽出できる技術は、創薬で最も重要な「標的探索」の劇的な加速を可能にします。

さらに、これらの17遺伝子から、実験においてすい臓がん細胞の増殖抑制が確認された6遺伝子は、そのうちの4遺伝子はすい臓がんとの関連性を報告した論文が存在せず、残りの2遺伝子は論文での報告がわずか1報のみ(2025年4月19日現在)という、極めて新規性の高い標的分子候補でした。

従来、標的探索は、文献を精査して有望な標的候補を見出すというアプローチで実施されており、文献に記載のない新規性の高い標的分子を見出すことは時間をかけても非常に困難だと言われていました。



本検証結果は、FRONTEOの自社開発AI「KIBIT」が未知の創薬標的分子と疾患の関連性を既知の文献から発見可能であることを証明し、短期間で標的分子候補を抽出できる技術は、創薬で最も重要な「標的探索」の劇的な加速を可能にすると考えます。

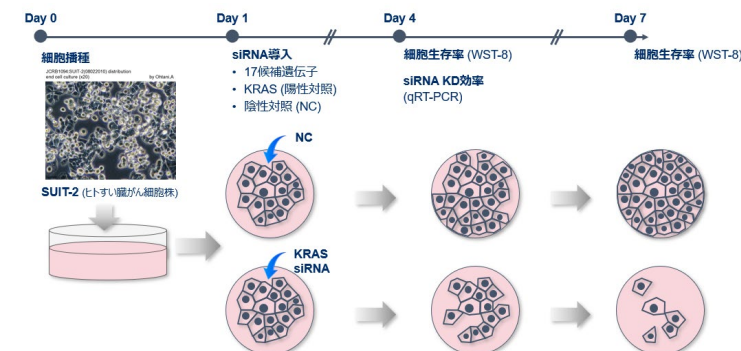
FRONTEOは、すい臓がんをはじめ治療困難な疾患対応への新たなアプローチとなるDDAIFの一層の推進と社会実装を加速してまいります。

■細胞増殖抑制効果について

抽出した17遺伝子について、すい臓がん細胞株で細胞増殖への影響を調べたところ、このうち6遺伝子で、働きを抑制する試験を実施した場合に何もなかった場合に比べて約4～6割のがん細胞の増殖抑制が確認されました。

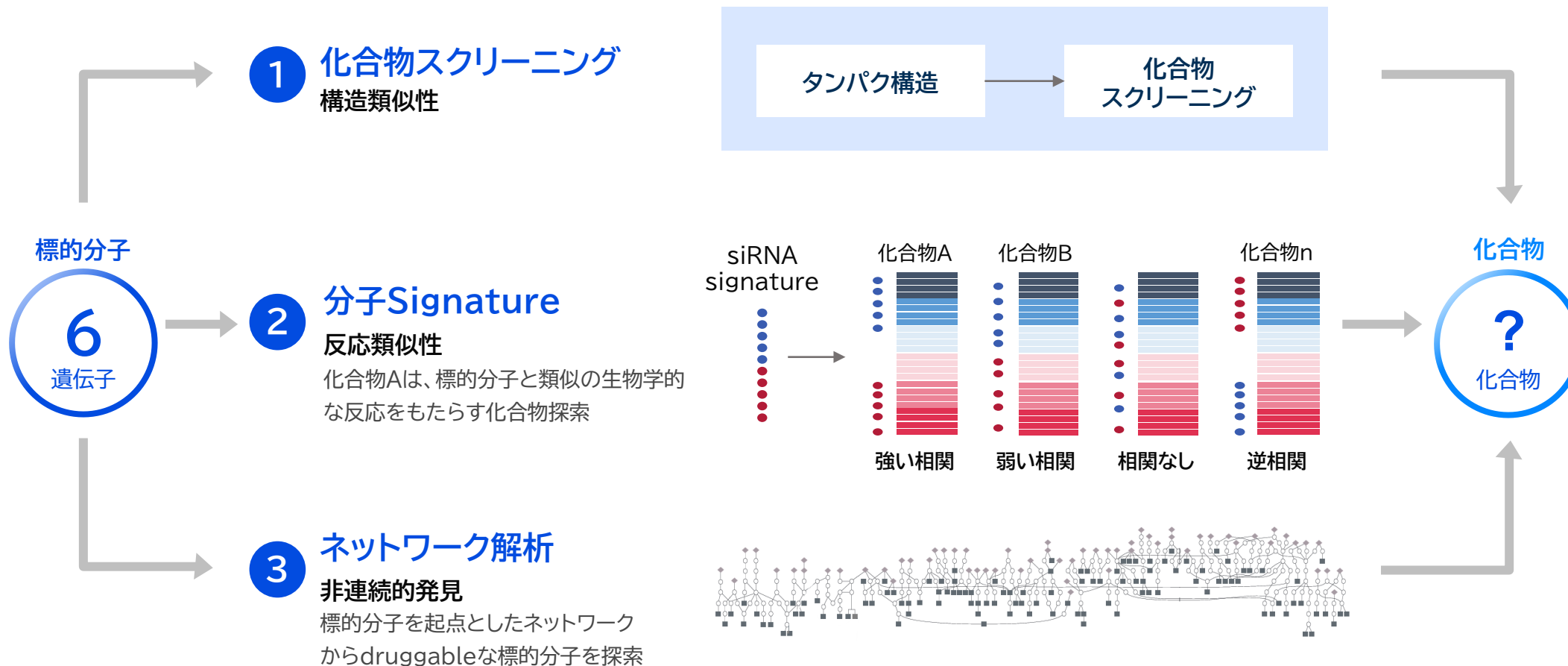
この割合は、すい臓がんの原因となり、細胞のがん化促進に特に重要な影響を持つ遺伝子として知られる「KRAS(ケーラス)」にも匹敵するものであり、すい臓がんの創薬標的分子候補として高いポテンシャルを持つ可能性があります。

今後、効果のみられた標的分子候補について、東京科学大学をはじめとする共創パートナーと連携し、作用機序の解明や動物実験による検証を予定しています。将来的には、製薬企業への導出も検討いたします。



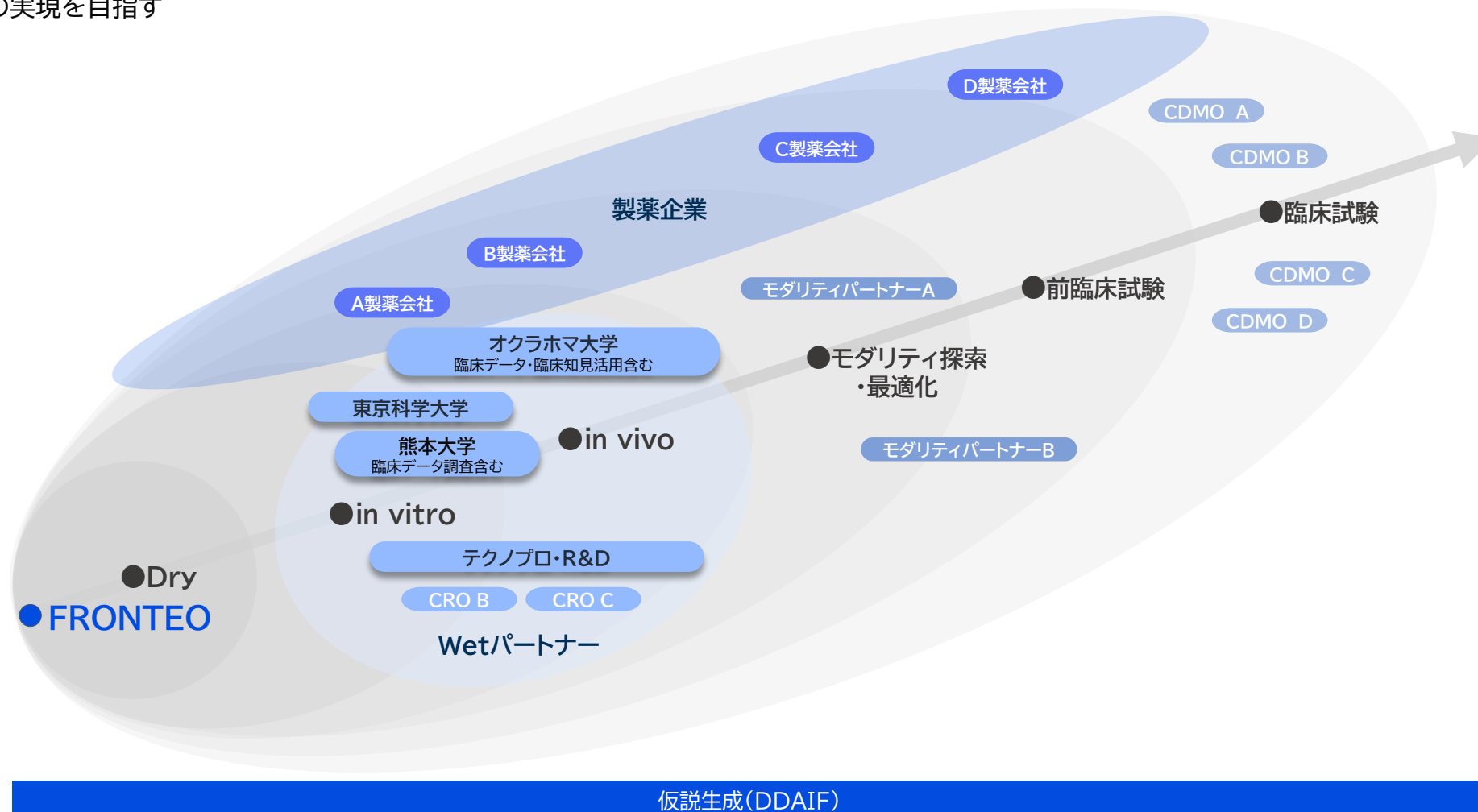
検証されたすい臓がんの標的分子の今後の展望

｜ 効果が確認された各標的分子について、複数の研究指針を策定



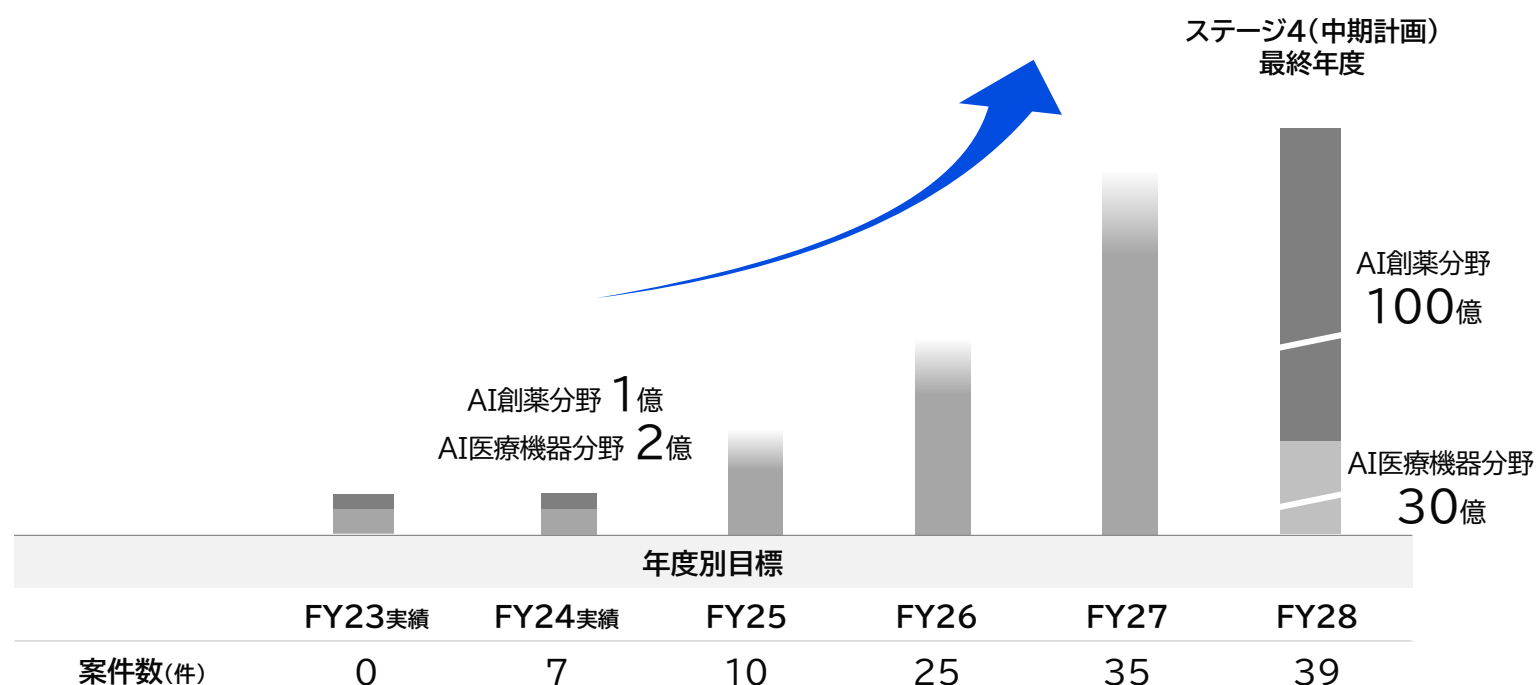
ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 FRONTEO共創型創薬エコシステムの将来像

- FRONTEOの独自テクノロジーを起点に、各分野のスペシャリストとパートナーを組み、エコシステムを構築することで、日本の創薬に貢献
- 「日本を再び創薬の地」に、そして医薬品産業を自動車、半導体に次ぐ基幹産業へと成長させることに貢献し、薬を必要とするすべての人に適切な薬が届くフェアな世界の実現を目指す



ライフサイエンスAI事業 将来性とKPI

- FY28 売上高130億円達成を目指し、DDAIFの共創プロジェクト型案件数をKPIとする
- DDAIFにおける共創プロジェクトにおいては、開発の進捗に応じて受領するマイルストーンフィーを通じた収益化に加え、中長期的には当社独自で探索した分子を製薬会社へ展開することから見込まれる収益も視野に



ステージ4達成のための施策

- ✓ FRONTEOの技術基盤と親和性の高い標的探索領域を中心とした共創プロジェクトを基軸とした案件創出
- ✓ バリデーション合格／開発マイルストーンなどFRONTEOが創出した標的候補の妥当性が一定確認できたタイミングでの収益計上することで、収益規模をスケールアップ
- ✓ また、共創プロジェクトで得られた知見や成果及び収益は、新たな技術開発に再投資し標的候補の開発成功率を継続的に向上させていく
- ✓ 高度専門人材(主に薬理研究者及びデータサイエンティスト)の採用に向けた積極投資

03 リスクマネジメント事業

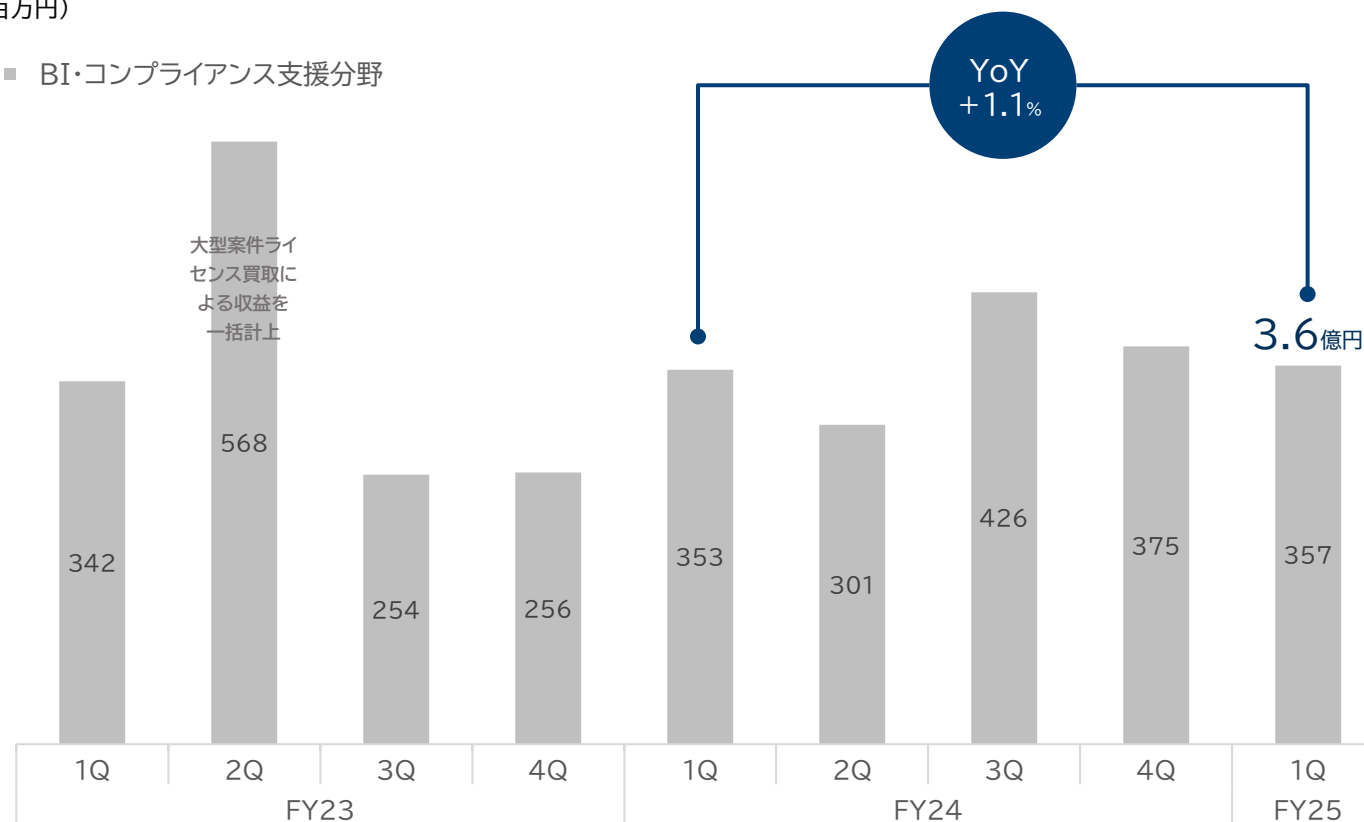
リスクマネジメント事業 BI・コンプライアンス支援分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比横ばい。リカーリング収益が堅調に推移
- BI・コンプライアンス支援分野では、金融機関を中心に不正検知システム「KIBIT Eye」の受注が堅調に推移（5大証券会社への導入実績80%を突破）、既存顧客の用途や導入部門の拡大といった深耕戦略が奏功

売上高

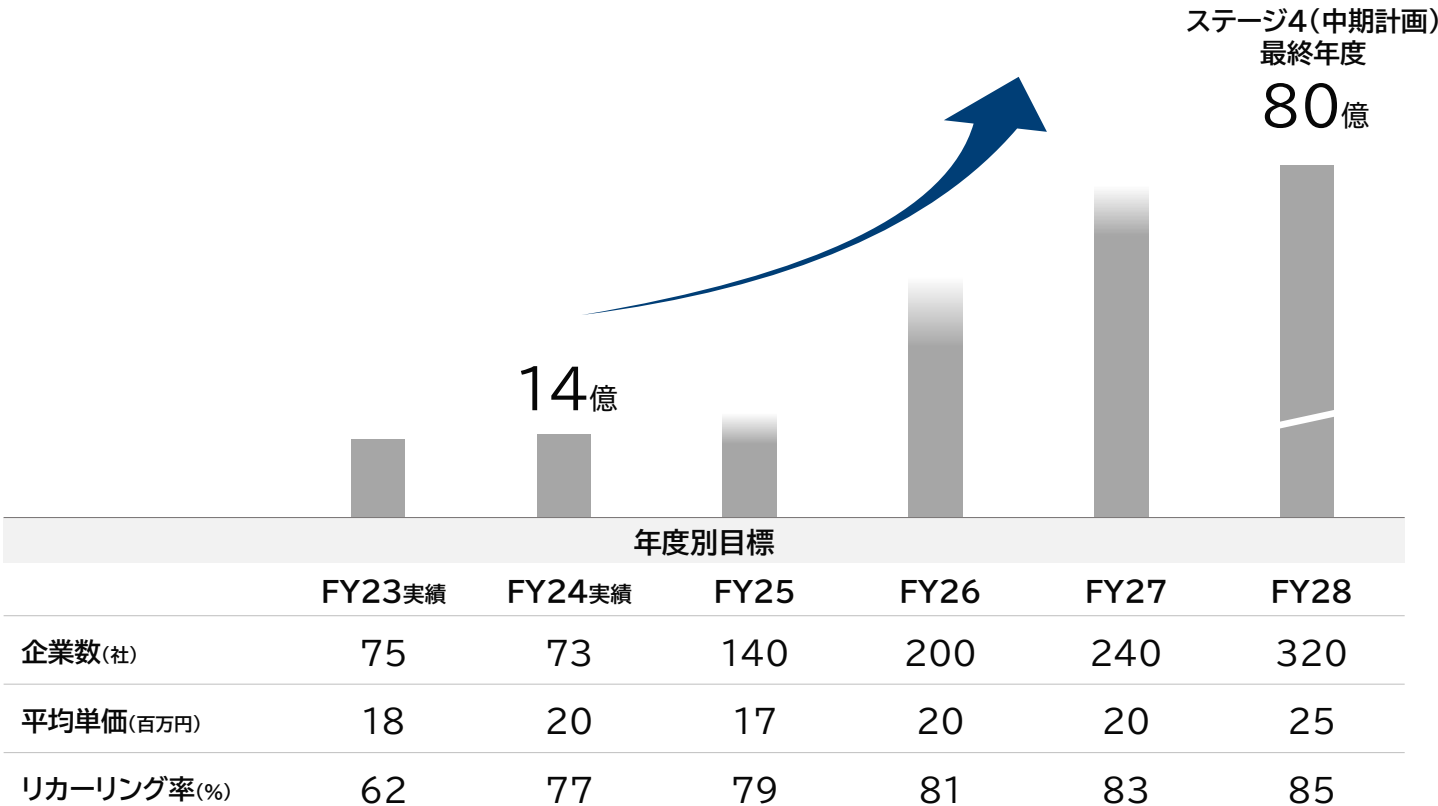
(百万円)

■ BI・コンプライアンス支援分野



リスクマネジメント事業 BI・コンプライアンス支援分野 将来性とKPI

Ⅰ FY28売上高80億円達成を目指し、契約企業数、平均単価、リカーリング率をKPIに設定



ステージ4達成のための施策

- ✓ FY28までに導入社数320社、1企業あたり単価を25百万円にし、80億円を目指す
- ✓ 営業施策：
 - FY24は既存顧客との取引深耕を軸としたアカウント毎の取引拡大・早期案件獲得に注力
 - FY25以降は既存顧客との取引深耕に加え、大手企業・準大手企業をターゲットにし、1億円規模の大規模プロジェクトの獲得
 - リスクマネジメント事業内での連携強化
従来からの強みを活かし個々のソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」・「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
 - リカーリング率については、FY24で当初目標を上回る77%に達し、ステージ4までにリカーリング率85%を目指す

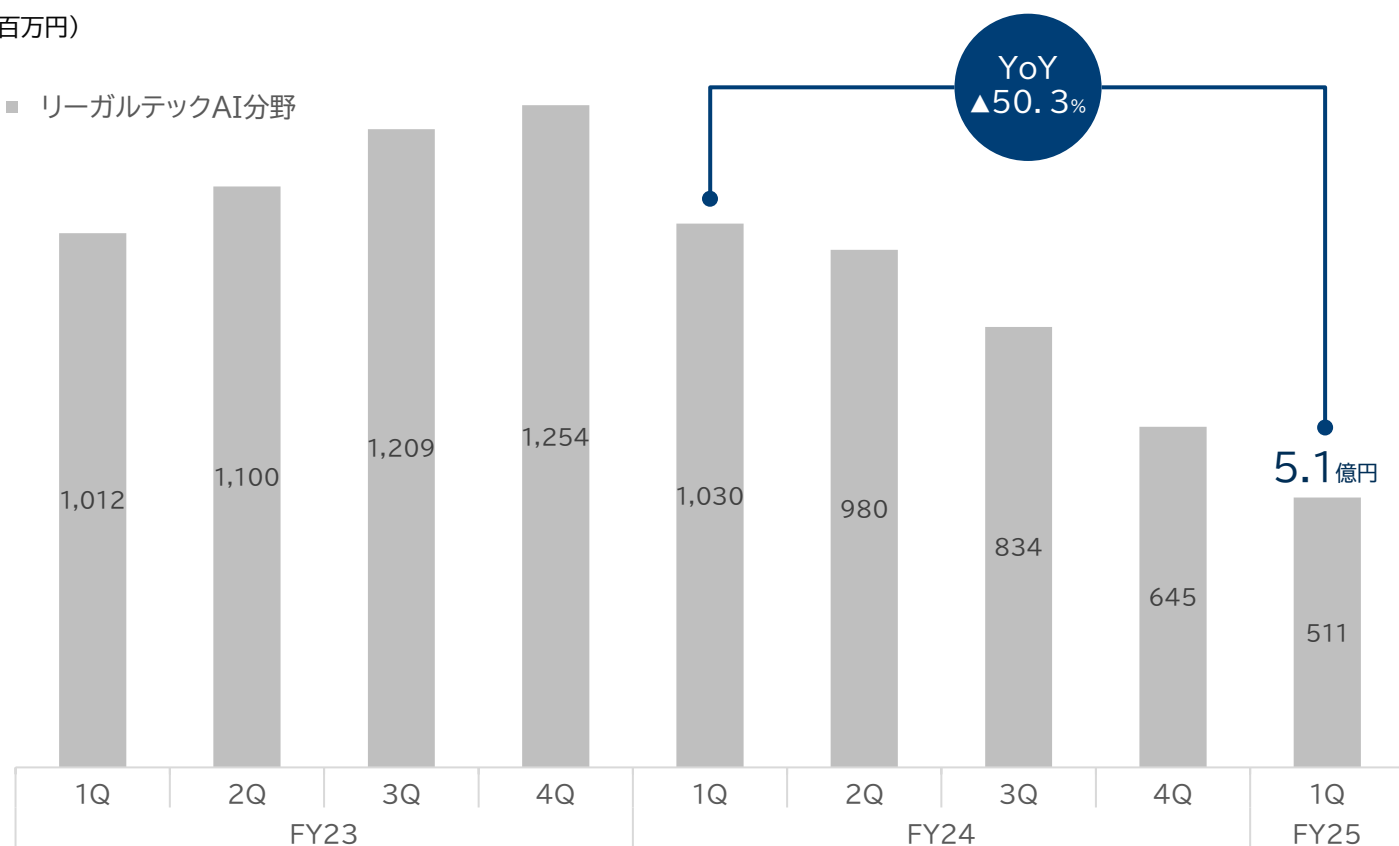
リスクマネジメント事業 リーガルテックAI分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比▲50.3%。米国子会社のeディスカバリ支援事業からの撤退による売上減少
- 国内においては、第三者委員会を含む調査ニーズの高まりを受け、フォレンジック事業分野を中心に堅調に推移

売上高

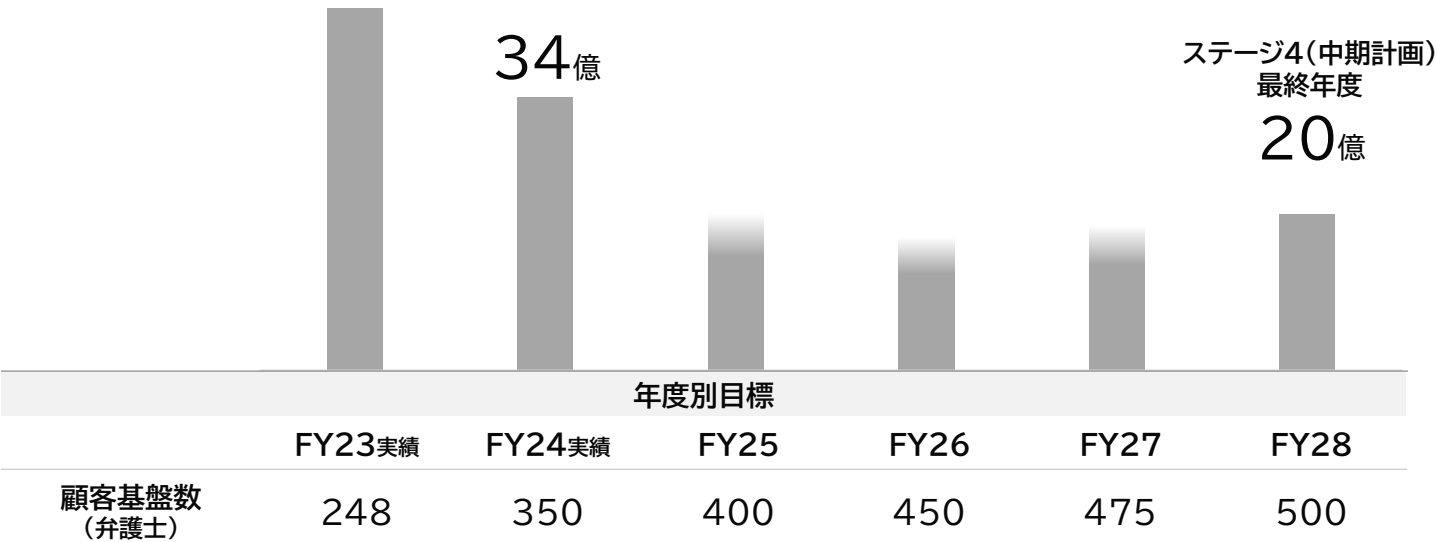
(百万円)

■ リーガルテックAI分野



リスクマネジメント事業 リーガルテックAI分野 将来性とKPI

｜ FY28売上高20億円維持を目指し、顧客基盤数(弁護士)をKPIに設定



ステージ4達成のための施策

- ✓ FLLP・勉強会・ウェビナーなどを実施し、顧客基盤の構築・強化を継続
- ✓ リスクマネジメント事業内での連携強化
従来からの強みを活かしソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
- ✓ 収益相関作用が高い組織／オペレーションを維持し、大型案件に左右されない堅実な事業運営

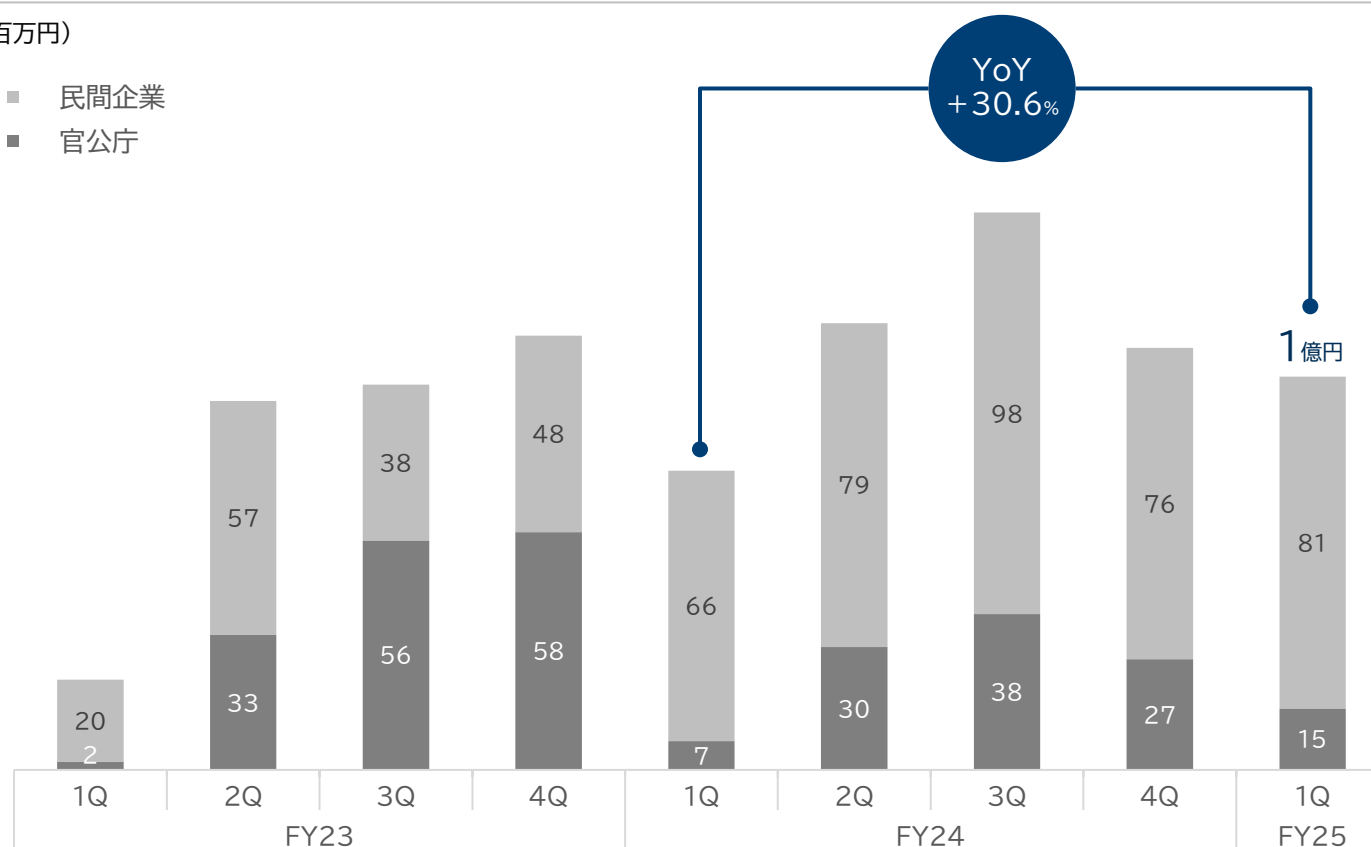
リスクマネジメント事業 経済安全保障分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比+30.6%と大幅増収
- 経済安全保障対応のニーズの高まりにより、民間企業案件については前年同期比+22.6%の成長
- 経済安全保障対応を統括する専任組織である、「経済安全保障室」の立上げ支援コンサルティングサービスの提供開始

売上高

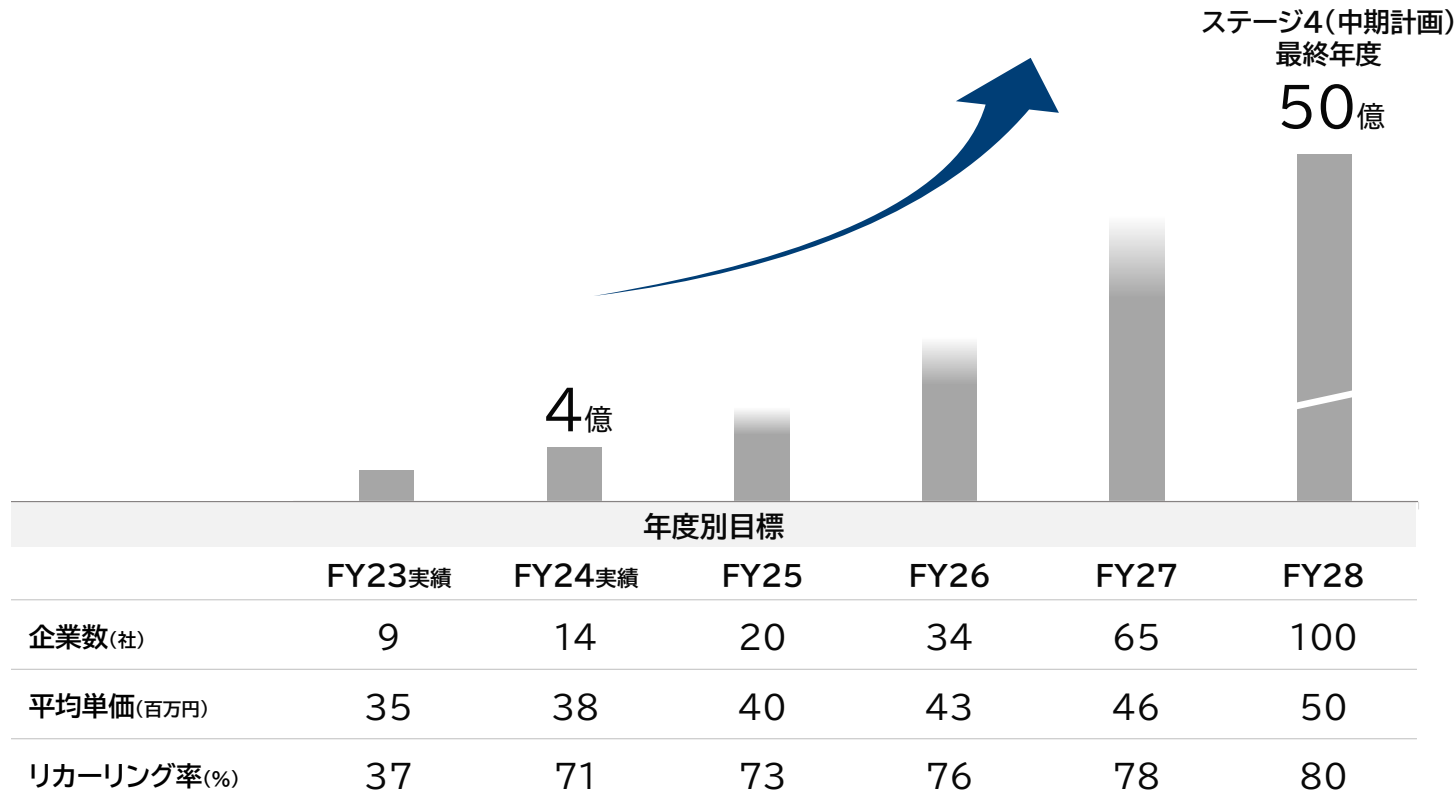
(百万円)

- 民間企業
- 官公庁



リスクマネジメント事業 経済安全保障分野 将来性とKPI

- FY28売上高50億円達成を目指し、契約企業数、平均単価、リカーリング率をKPIに設定
- 経済安全保障室を設置している又は設置を検討している上場企業数は19社*
FY24時点で当社ソリューションの導入シェアは70%超と推定



ステージ4達成のための施策

- ✓ アーリーアダプター・官公庁への訴求を継続
- ✓ 営業施策:官公庁や大手企業をターゲットに、包括契約(ライセンス+伴走支援)を前提としたプロジェクトの獲得
- ✓ ソリューションのアップデート:新機能の追加や定期的なアップデートをすることで、付加価値を向上
- ✓ さらなる国内市場活性化の為に、経済安全保障室立ち上げコンサルティングサービスを始動させ、経済安全保障における必要機能階層を定義し、データドリブンな意思決定を行うための総合的なサービス提供を推進していく
- ✓ リスクマネジメント事業内での連携強化
従来からの強みを活かしソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
- ✓ リカーリング率については、FY24で当初目標を上回る71%に達し、ステージ4までにリカーリング率80%を目指す

*株式会社第一生命経済研究所「経済安全保障から経営を考える」を参考

04 DX事業

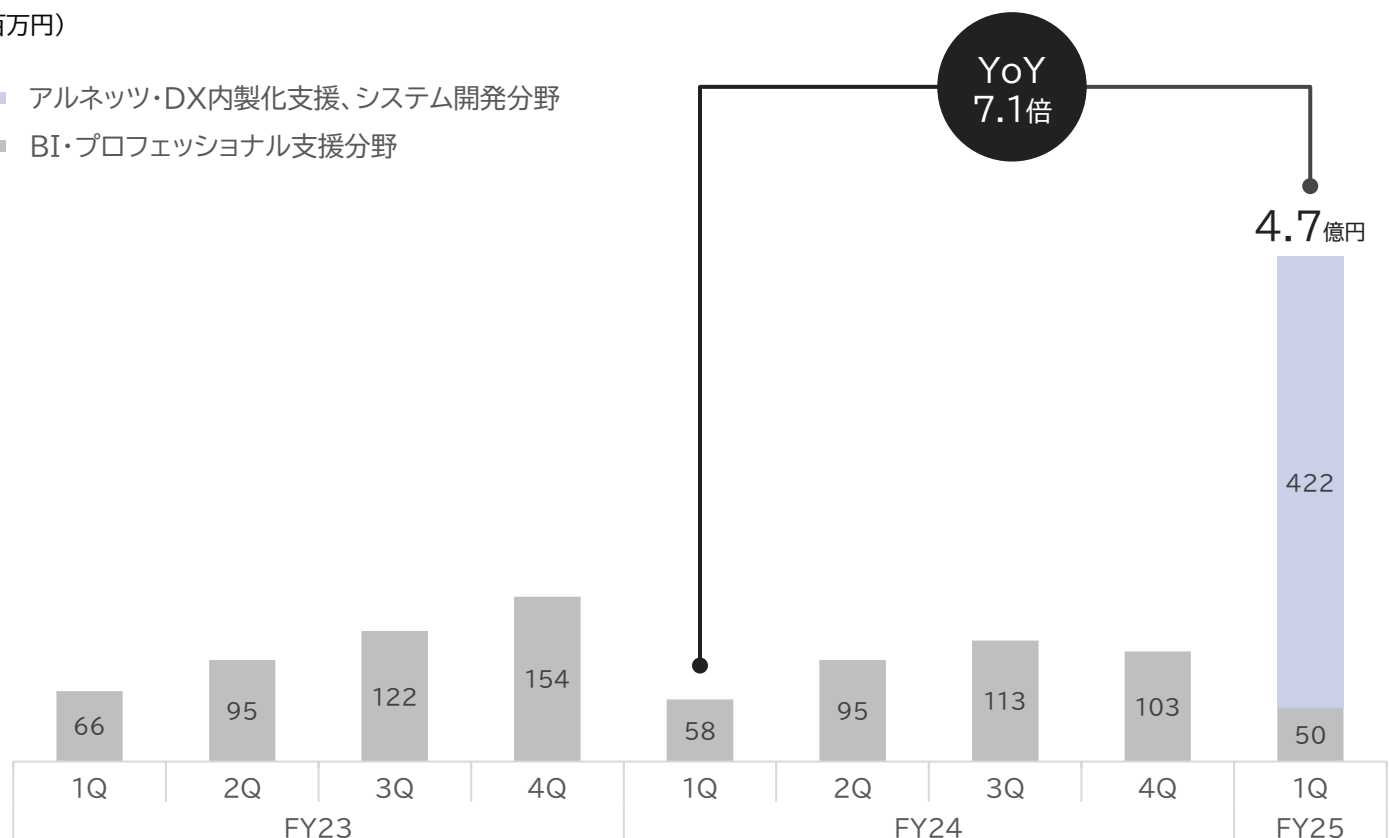
DX事業 売上高

- 2025年4月にアルネッツを子会社化し、BI・プロフェッショナル支援分野と合わせてDX事業として独立したセグメントへ再編
- アルネッツが提供するソリューションを通じて、企業内に分散するデータの統合及びデジタル化を実現し、企業のDX推進のための基盤を整備
- FRONTEOのプロフェッショナル支援ソリューションとの組み合わせで、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的なDX支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を目指す

売上高

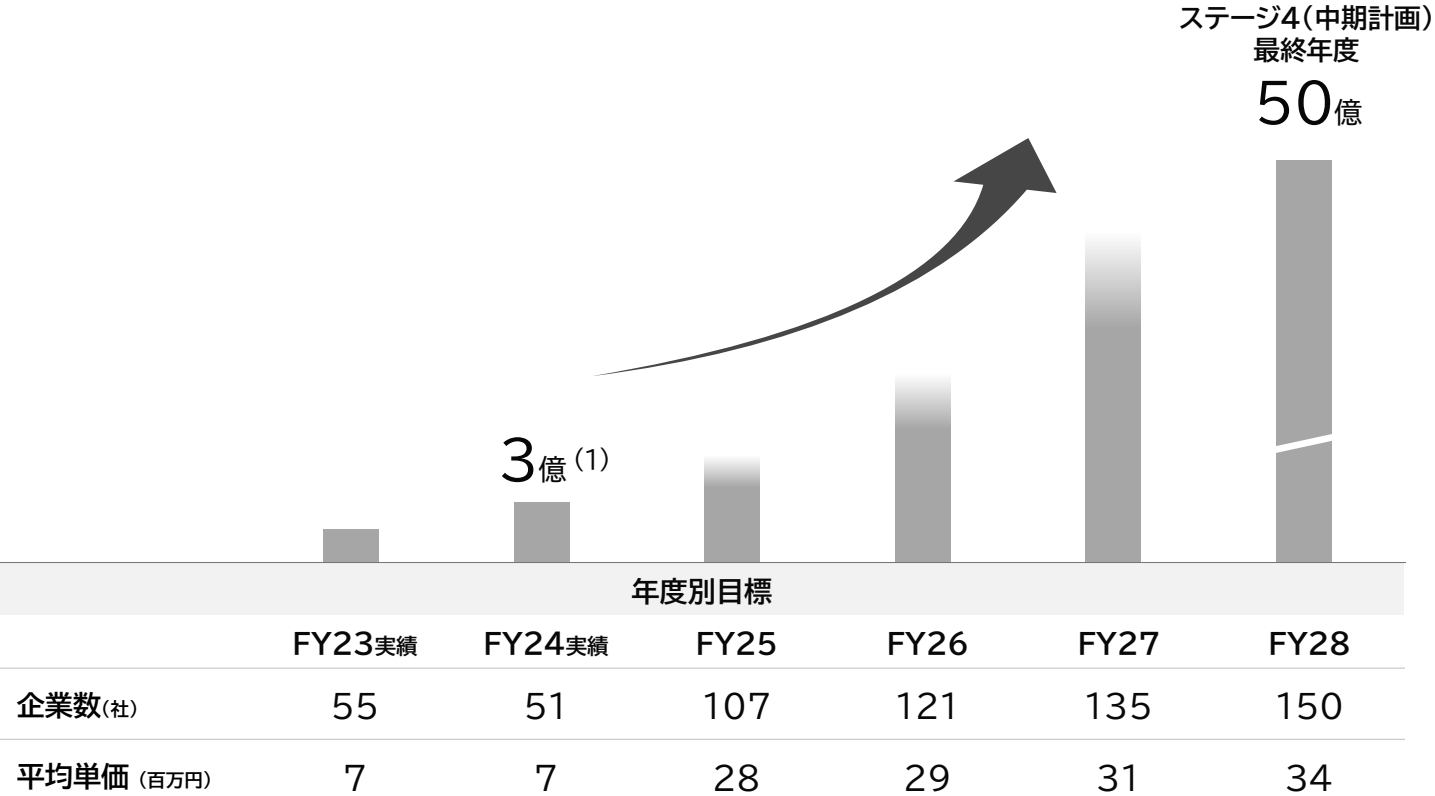
(百万円)

- アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野
- BI・プロフェッショナル支援分野



DX事業 将来性とKPI

| FY28売上高50億円達成を目指し、契約企業数、平均単価をKPIに設定



ステージ4達成のための施策

- ✓ 子会社化したアルネッツが提供するソリューションを通じた、企業内に分散するデータの統合及びデジタル化を実現し企業のDX推進のための基盤構築と、FRONTEOのプロフェッショナル支援ソリューションを組み合わせることで、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的な支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を実現

(1) BI・プロフェッショナル支援分野のみの売上高

Appendix

セグメント別財務情報

(百万円)	FY23				FY23 通期	FY24				FY24 通期	FY25
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q		1Q
ライフサイエンスAI事業											
売上高	28	119	48	423	620	64	75	73	141	354	107
AI創薬分野	26	20	40	24	111	15	17	27	63	122	64
AI医療機器分野・その他	1	99	8	399	509	48	58	46	78	231	42
営業利益	▲ 162	▲ 116	▲ 111	211	▲ 178	▲ 64	▲ 57	▲ 72	▲ 37	▲ 231	▲ 137
リスクマネジメント事業											
売上高	1,378	1,759	1,558	1,618	6,315	1,458	1,392	1,397	1,125	5,374	966
BI・コンプライアンス支援分野	342	568	254	256	1,421	353	301	426	375	1,457	357
リーガルテックAI分野	1,012	1,100	1,209	1,254	4,575	1,030	980	834	645	3,491	511
経済安全保障分野	22	90	94	107	316	74	110	136	104	425	96
官公庁	2	33	56	58	151	7	30	38	27	104	15
民間企業	20	57	38	48	164	66	79	98	76	321	81
営業利益	▲ 407	92	▲ 11	235	▲ 91	200	178	193	86	659	▲ 7
DX事業											
売上高	66	95	122	154	439	58	95	113	103	370	472
BI・プロフェッショナル支援分野	66	95	122	154	439	58	95	113	103	370	50
アルネット・DX内製化支援、システム開発分野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	422
営業利益	▲ 2	38	1	47	84	14	18	37	28	99	56

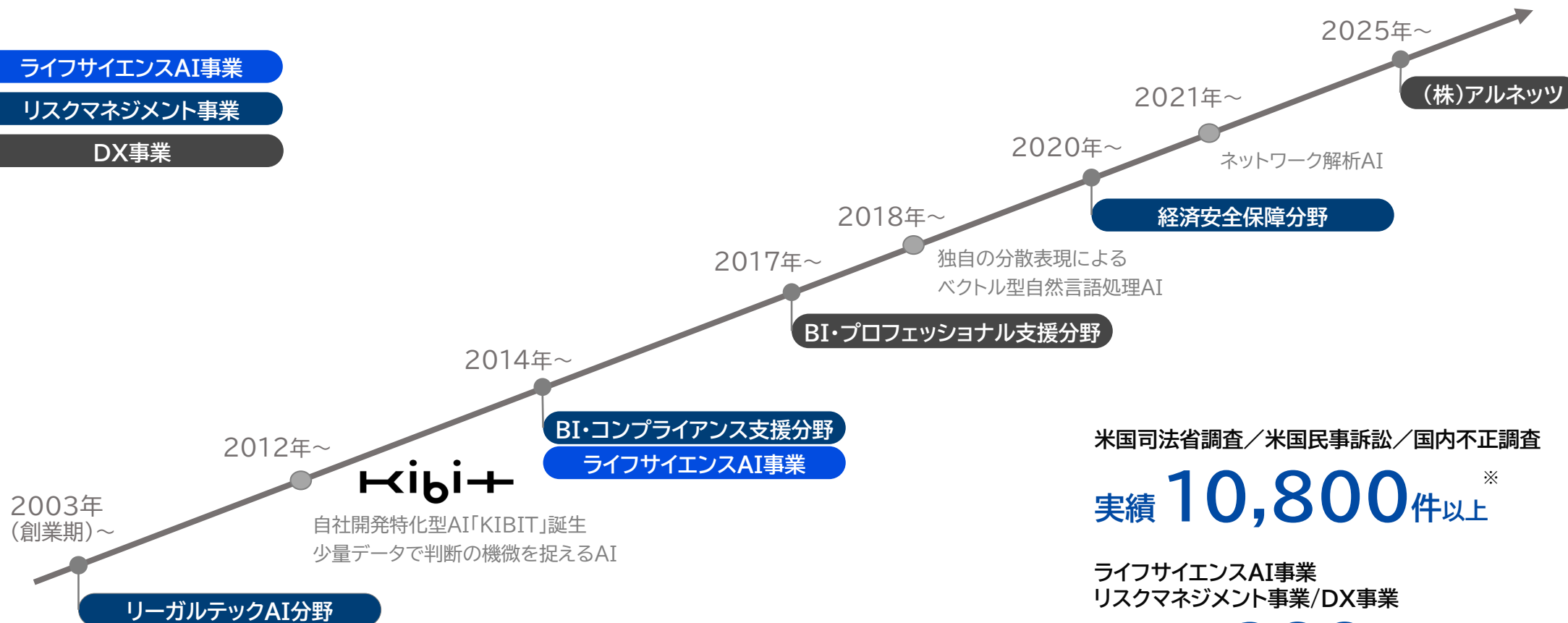
会社名：	株式会社FRONTEO
上場証券取引所：	東京証券取引所グロース市場（証券コード：2158）
代表取締役社長：	守本 正宏
設立年月日：	2003年8月8日
資本金：	899,176千円（2025年3月31日時点）
従業員数(連結)：	206人（2025年3月31日時点）
事業内容：	<p>自社開発の特化型AI「KIBIT」の提供を通じた、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断支援</p> <p>（ライフサイエンスAI事業／リスクマネジメント事業<ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野／リーガルテックAI分野／経済安全保障分野>／DX事業<ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野／株式会社アルネッツ・DX内製化支援、システム開発分野>）</p>
主要取引先：	<p>民間企業（化学・機械・教育・金融・建設・小売・自動車・商社・情報通信・食品・製薬・電子部品・電力・保険など）</p> <p>官公庁（法執行機関・各種監視委員会）、国内外法律事務所、医療機関</p>

Global Offices



特化型AI「KIBIT」を基軸とした当社事業の変遷と実績

2012年の「KIBIT」誕生以降、事業領域の拡大及び課題の多様化に合わせた技術進化を継続



米国司法省調査／米国民事訴訟／国内不正調査

実績 **10,800**件以上[※]

ライフサイエンスAI事業
リスクマネジメント事業/DX事業

導入社数 **388**社^{※, ※※}

※2025年3月31日時点 ※※各製品・サービスの累計導入実績

大手企業を中心に導入

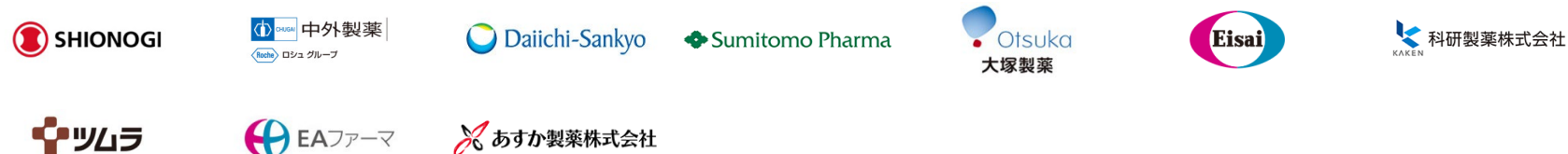
金融機関



製造業



製薬企業



サービス業



大学・研究機関



(一部掲載、順不同) ※2025年6月1日時点

自社開発の特化型AI「KIBIT」の提供を通じて、日夜社会課題と向き合う各分野の専門家を科学的に支援

社会課題

訴訟 不正 コンプライアンス 経済安全保障 技能伝承 病気 事故

解決の努力

専門家

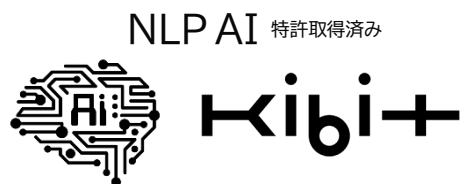
弁護士 犯罪捜査官 特許分析員 創薬研究者 医師 看護師・介護士



自然言語による判断
(会話、文書、論文)

専門家自らが
理解する仮説生成

判断支援



マップ化する技術 (特許取得済み)



特化型AI「KIBIT」とは

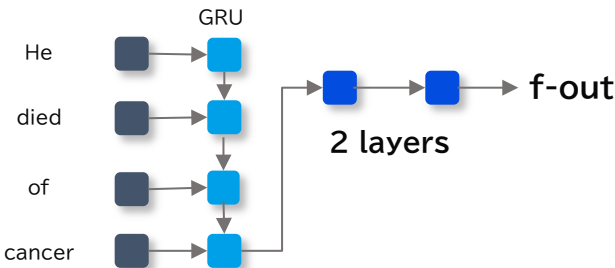
「KIBIT」の特徴

- | 自然言語処理、ネットワーク解析に利用可能な軽量・高速・高性能な独自開発AI
- | 省電力で環境負荷の小さいGreen microAI
- | 少量の教師データでも性能を発揮する独自アルゴリズム搭載
- | 判断根拠を直感的にビジュアライズ
- | 世界で85件の有効特許登録 (2025年3月31日時点)



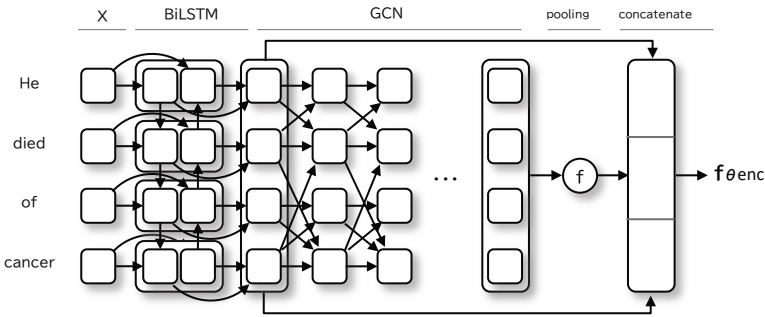
KiBi+ モデル

400分の1の構造



GCEモデル

4×100 layers



※1 Energy and Policy Considerations for Deep Learning in NLP, College of Information and Computer Sciences University of Massachusetts Amherst (Jun 2019) から抜粋
 ※2 日本のCO2排出量及び日本の人口からFRONTEO作成 ※3 ※1の論文と同様の計算方法により、FRONTEO作成

設計思想の違い

Kibi+

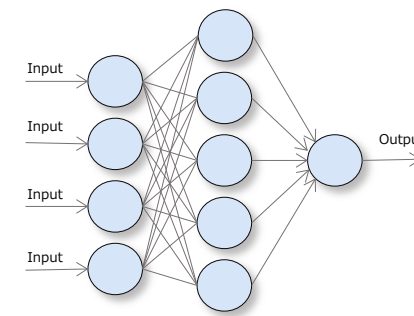
人間の子供が新しい言葉を学ぶ過程
人が思考を発展させる過程



人の学び、思考過程を創造する

一般的なAI

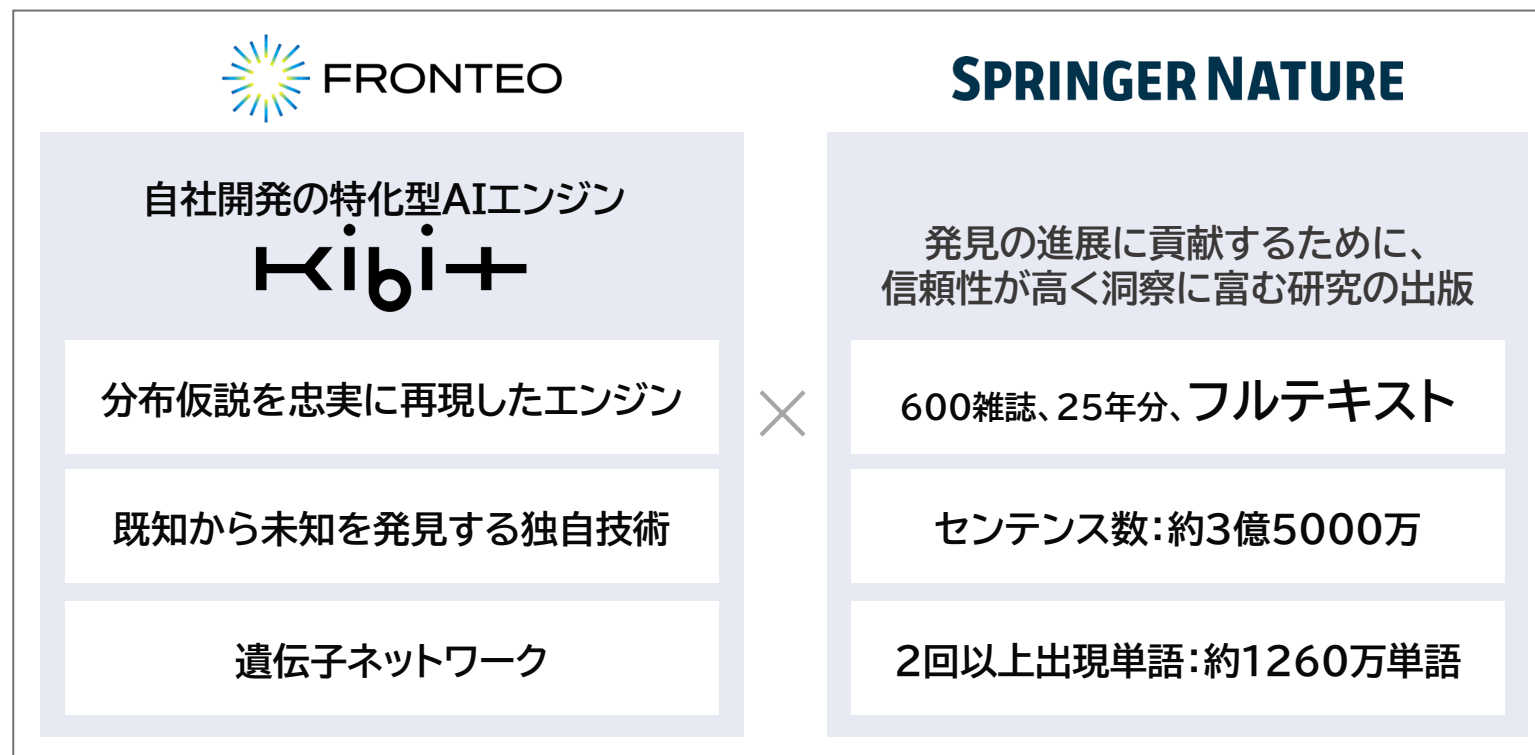
人間の脳の神経回路網を数式的なモデルで表現



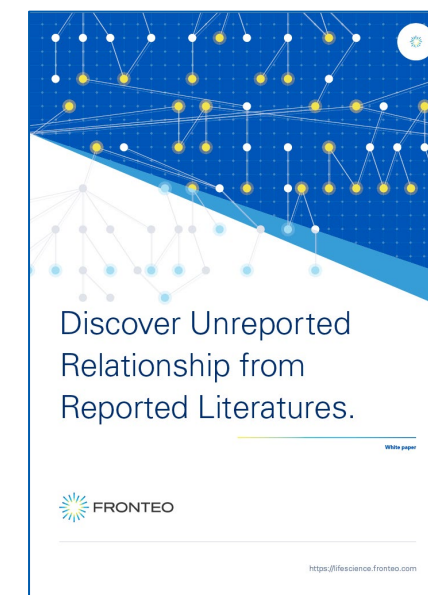
脳(神経ネットワーク)を創造する

特化型AI「KIBIT」がもたらす画期的な創薬アプローチに関するホワイトペーパーを公開

- | 既知の文献情報から未知の関連性を発見する独自技術を活用した標的探索やドラッグリポジショニング等を支援するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」を推進
- | KIBITが2022年までのシュプリングーネイチャー掲載文献から予測した未知の創薬標的について、2024年の新しい文献で疾患と遺伝子の関連性が明らかになる



ホワイトペーパー



URL:
<https://lifescience.fronteousing.com/whitepaper1>

FRONTEO Bright Value

記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、
情報社会のフェアネスを実現します。



お問い合わせ先

株式会社FRONTEO
email: ir_info@fronteo.com

将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。